

地域密着型サービス評価の自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です)

取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「利用者が楽しく、安楽に暮らしていける」様に、近隣の方達との和を大切にする為にスタッフが間に入って実現を目指している。	朝、夕の申し送りや会議等で日頃の業務、職員のケアに対する取り組み。日々の反省・改善項目等を理念を踏まえた上で話をしている。
2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	「利用者スタッフは家族の一員である」との認識を、毎日の申し送りから伝達している。	
3	家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる	行事や家族会、又、面会などの際に、自然体で交流が図れる様スタッフ一同働き掛けている。	
2. 地域との支えあい			
4	隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	日常的に挨拶をしあい、時には話し込んでしまう事がある。又、スタッフだけではなく、利用者も気軽に声を掛け合っている。	
5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	運営推進委員会や行事等に、特別と言う訳ではなく気軽に参加して頂き、いつも自然体でお付き合いしている。	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	当ホームの利用者を第一に考えた上で「絶対に…」と言う事は決して無く、絶えず「他には何か…」と謙虚な姿勢でスタッフ間で話し合いを持っている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	ホーム内、スタッフ間だけではどうしても自己流になってしまうので、外部(第三者)評価を謙虚に受け止め、改善出来る様に取り組んでいる。		
8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	推進委員会で、地域にホームの状況を説明するだけでなく、利用者と家族も参加する事によって、交流の場が広がり、又、そこでの意見を受け入れサービスの改善につなげている。		
9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	毎月、市の担当者にホームの状況を報告し、意見交換を行っている。		
10	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	利用者と家族の例をもとに、日々、権利擁護や生活保護などについて、話題に挙げて話し合いをしている。		
11	虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	利用者に対して、言葉一つでも虐待に当たる事が有り「利用者は我々の人生の先輩であり、尊敬の気持ちを持って接しなければいけない。」と日々、申し送りで伝達している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>例えば、入居後に退所になるケースなどは、契約時に説明し、又、退所の際には他の施設へのスムーズに移行が行なえる様に支援をしている。そして質問等には快く回答する様にし、家族等との信頼関係を築いている。</p>	
13	<p>運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>利用者がいつでも意見を言える様に、スタッフ一同利用者の言葉に耳を傾けている。</p>	
14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>利用者の様子は、毎月の家族への手紙や面会の際に伝えている。病気や特記事項があった場合は、その都度報告している。</p>	
15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>管理者(ホーム長)が苦情や相談窓口の中心となっており、有った場合は速やかに業務カンファ等の会議で職員間で話し合いを持ち改善に向けてケアを見直している。</p>	
16	<p>運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>業務カンファは、日々、管理者とスタッフ間で話し合いをしているが、個々にスタッフの建設的な意見はよく聞いて、反映出来る様に努力している。</p>	
17	<p>柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	<p>特に利用者の状況によって、スタッフの勤務調整を行なっているが、その度に状況を理解して貰える様に話し合いを持っている。</p>	
18	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>各居室の担当を決めているが、利用者一人一人はスタッフ全員が担当であるとの認識を持って業務に当たっており、利用者に安心して頂ける様に努力している。</p>	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	系列の他のグループホームに研修する機会が有り、それを通じ、改めて当ホームの業務改善につなげられる様努力が図られている。	職員も自身の研鑽のために意欲的である。また、研修受講もあり参加者が施設内伝達講習をする事で業務に改善取り組みをする。
20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループ全体の勉強会が定期的に行われていて、スタッフが交替で参加し業務の改善につなげている。	
21	職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	無理のない勤務体制を確保したり、場合によってはスタッフとの面接を行い、不安等の解消に努めている。	定期的にまた、必要に応じて面談を行い、仕事に対する意欲の把握や悩み、問題点を聞く機会を設けている。
22	向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	本部スタッフが定期的にホームを回り、状況等を確認しアドバイス等を適格に行なっている。	施設状況を理解し、職場における問題発生時にも対応が速やかにされている。また、管理者への指導他、全スタッフが研修に参加できるように体制を整えている。
安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	利用者がいつでも話せる環境に気を付けたり、又、スタッフの方から利用者に声掛け出来る様に信頼関係を目指している。	話を良く効いてあげられる人。イライラせず根気良く同じ事を繰り返せる人等穏やかな場面作りを大事にしている。
24	初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	面会接等に気軽に話せる様にし、当ホームやスタッフが出来る様に協力していく。	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	先ず、何でも相談できる関係に有る。		その中でも、援助出来るのか、他のサービスを紹介しなければならないのか等、見極め出来る様に、経験を積みながら行なっていく。
26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	ちょっとした声掛けや聞き取り等、信頼関係を築いている。		その上で、少しずつでも馴染みの関係作りに努力していく。
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者が孤立しない様に、スタッフが絶えず見守り声掛けし一緒に過ごせる様に、信頼関係を築いている。		
28	本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	面会接などにスタッフは気軽に声を掛け、本人の様子を絶えず伝え、又、時には家族からの要望を聞き一緒に利用者の事を考えている。		
29	本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	入居時よりずっと、家族とは利用者のより良いケアの為に話し合い、相談を行なっている。		
30	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	利用者が当ホームに入居する前の状況や付き合いが続けられる様に、家族と相談の上支援している。		
31	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	利用者同士が交流を持てる様に、フロアー(食堂)がその場になっている。スタッフがその環境、関係作りに努力している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	止むを得ない事情で退去した利用者や家族に対しても、行事等にお誘いして交流を続けている。		
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者一人一人の意向は、食事や趣味など様々であり、先ずスタッフはその意向をしっかりと把握出来る様に全力をあげている。出来ない時は、スタッフ間でケアカンファレンス等話し合いを持っている。		
34	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用者本人からの聞き取りを通じて、又、家族から、更に利用していたサービス事業所などより情報収集に努めている。		
35	暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	利用者の毎日毎日の生活の中で、スタッフが気軽に声掛けし、現状や状況を把握出来る様に努力している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	利用者の意向を第一に、ケアプラン作成担当者を中心にスタッフ皆で、ケアカンファレンスや話し合いによって作成している。		
37	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じた見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	「利用者の状況は日々変わる。」との認識を持って、スタッフが利用者を日々観察し接する事によって、状況を把握した上でケアプランを作成している。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	利用者の毎日の状況を把握しながら、スタッフ間の申し送りや伝達を徹底し、ケアプラン作成を行なっている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	当ホームの運営方針等、スタッフ間でいつも確認しながら、又、利用者第一にケアを行なっている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	行事などで、民生委員やボランティアとの交流がある。特に民生委員とは園芸で、ボランティアとは随時交流がある。		
41	他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	地域の他のケアマネジャーやサービス事業者とは随時連絡を取り合っていて、利用者の情報提供などを行なっている。		
42	地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	地域包括支援センターとは推進委員会などを通じ、随時連絡を取り合っている。		長期的なケアマネジメントなどについて、地域包括支援センターと協力してもっと話を進めていきたいと思っている。
43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	当ホームは、近隣の往診医に毎週来てもらっている。利用者に何かあれば、随時連絡相談し適切な処置を受けられているので、利用者と家族は安心感をもっている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	前項の医師と随時連携を取っている。		
45	看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	当ホームの看護職員が随時、他のスタッフと申し送りや相談し連携を取っている。		
46	早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	当ホームと提携のある病院では、相談員と随時情報交換や連絡相談を行なっている。		
47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	利用者によっては入居時に、又、入居後状態によっては利用者本人や家族医師らと話し合い、今後のよりよい方向性に向けている。		
48	重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	重度の利用者に対しては、スタッフ一丸でケアカンファレンスを続け、かかりつけ医と共によりよいケアに取り組んでいる。		
49	住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	退去時には、家族と話し合いをし利用者の気持ちを大切に考え、より良い方向性を検討している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1) 一人ひとりの尊重			
50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	「利用者は人生の先輩である。」という認識のもとに、スタッフは利用者のケアにあたっている。	
51	利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	スタッフが決めるのではなく、利用者の希望や意向に従ってスタッフが援助出来る体制を進めている。	日常生活場面では些細と思われる希望・要望でも傾聴している。決して無理強いする事無く、極自然に受け止め、さり気無く注意を払っている。
52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	スタッフが決めるのではなく、利用者の希望や意向に従ってスタッフが援助出来る体制を進めている。	
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	利用者本人の希望で、スタッフが衣類の買物や美容院等に付き添っている。	外出時口紅やお化粧をする事で気分転換でき、上気される姿が見られる。雰囲気的にも利用者にとって楽しい時間作りに取り組んでいきたい。
54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の希望に従って、食事のメニューを決めたり、食事を作ったり、片付け等を、スタッフと一緒に進めている。	利用者の食べたいメニューを用いておく時には、外食も必要に応じ試している。
55	本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	お酒やタバコは、時間と場所を決めて実施している。	お祝い時(お正月)には、お酒を少々だが飲める場も設定してあり喜ばれている。今後も色々な形で工夫していきたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	<p>気持ちよい排泄の支援</p> <p>排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している</p>	<p>利用者本人の意向を第一に、尿意が有り立位可能であればパンツ使用を支援している。</p> <p>利用者の体調不良などの状況や夜間帯などでは、オムツを使用する事も有る。</p>		<p>全介助の方も日中の排泄はトイレを利用し、さっぱりといただいている。カブレを作らない。不快感を感じさせないように支援している。</p>
57	<p>入浴を楽しむことができる支援</p> <p>曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している</p>	<p>利用者の希望を優先し、基本的に2日に一回入浴して頂いている。</p>		
58	<p>安眠や休息の支援</p> <p>一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している</p>	<p>日中、出来るだけ活動して頂き、又、入浴や足浴を通じ、夜間安眠して頂ける様支援している。</p>		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	<p>役割、楽しみごと、気晴らしの支援</p> <p>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている</p>	<p>利用者一人ひとりによって楽しみが違いますが、レクリエーションや散歩や買物等、スタッフが一緒に行なっている。</p>		
60	<p>お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>本人の意向を尊重し家族とも相談し、おこづかいの金額を決めさせて頂いている。又、買物等では本人が支払いをしている。</p>		
61	<p>日常的な外出支援</p> <p>事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している</p>	<p>その日の天候も有るが、散歩や買物は日々の日課として位置づけている。</p>		
62	<p>普段行けない場所への外出支援</p> <p>一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している</p>	<p>利用者本人の意向に従い、車でスタッフが同行して出掛けたり、又、家族にお願いする事も有る。</p>		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	基本的には本人の意向に従って支援しているが、家族の希望により制限している場合も有る。		
64	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	利用者が会いたい人は、利用者と同様にスタッフ一同大歓迎している。家族はもちろんの事、利用者の友人等、いつでも来苑して頂ける様に声掛けしている。		
(4) 安心と安全を支える支援				
65	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束委員会を中心に、そのケアに取り組んでいる。		
66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	利用者の安全を第一に考えており、利用者が外出したい意向があれば、スタッフに申し出て頂く様にお願いして一緒に外出している。しかし緊急やむをえない場合は、この限りではない。		
67	利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	「利用者の命を預かっている。」との認識で、スタッフ一同注意している。		
68	注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	包丁やハサミ等、スタッフが必ず利用者との間に入って、使用前確認している。		
69	事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	普段より申し送りを始め、ケアカンファレンス、業務ケアカンファレンス等、事故防止に取り組んでいる。		スタッフ一人ひとりが、もっと自覚を持って出来る様に、更に訓練を積んでいく。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	防災、避難訓練を毎月行なって、スタッフが熟知し定着出来る様にしている。		
71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	スタッフが災害時、利用者を避難誘導出来る様に訓練を毎月行い、又、近隣にも協力を呼び掛けている。		
72	リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	利用者一人ひとり、個人個人によって持病等有る場合、あらかじめ家族やスタッフ、医師らと話し合いを持っている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	利用者の状態については、毎日スタッフが様子を観察し、申し送り、伝達を確実にこなしている。		
74	服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	スタッフが利用者の服薬を確実に出来る様に、申し送り、ケアカンファレンス等を徹底している。		
75	便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	スタッフは、利用者の便秘に対しては決して下剤に頼る事なく、日々散歩にお誘いする等、又、牛乳などを勧めている。		
76	口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	利用者一人ひとりの状態により、声掛け、見守りをしたり、介助したり、様子観察を行なっている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者一人ひとりの食事量、水分量は毎食後必ずチェックしている。		
78	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している（インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等）	主治医の指導の元、又、スタッフ間での申し送りを始め、ケアカンファレンス、業務カンファレンスを通じ対応している。		
79	食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	食材は外部発注して保管には十分注意し、作ってから2時間経過したものは処分している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1) 居心地のよい環境づくり				
80	安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	環境整備として、草むしり等行なったり、花を飾ったり、特に利用者に喜んでもらえる様にしている。		
81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者にとって、場所が分かる様に掲示している。又、季節感が分かる様に飾りも工夫している。		
82	共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	利用者の居室はプライバシーになっている。利用者の意向が第一になっている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室内は、全て利用者本人の持ち込みになっている。又、不足しているものがあれば、家族と相談の上用意して頂いている。		
84	換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のよどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	トイレ内は特に消臭に気を付けており、温度調整は一日の中でも変えており、決して空調のつけっ放しはしていない。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	独歩の方は、手すりにつかまれる様に至る所に備わっており、車椅子自乗の方は、スペースが十分取られ安全な設備になっている。又、スタッフはいつでも見守り出来る様に注意している。		
86	わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	利用者の見守りを重視し、何か有ればいつでもスタッフが手を貸せる様にしている。又、掲示物等、利用者が分かる配慮もしている。		
87	建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	2階のベランダでは、利用者がお茶を飲みながら話し合える様に、スタッフが支援している。		

. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
項 目			
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	ほぼ全ての利用者の	
		利用者の2/3くらいの	
		利用者の1/3くらいの	
		ほとんど掴んでいない	
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	毎日ある	
		数日に1回程度ある	
		たまにある	
		ほとんどない	
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	ほぼ全ての家族と	
		家族の2/3くらいと	
		家族の1/3くらいと	
		ほとんどできていない	

項 目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	ほぼ毎日のように	
		数日に1回程度	
		たまに	
		ほとんどない	
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	大いに増えている	
		少しずつ増えている	
		あまり増えていない	
		全くいない	
98	職員は、生き活きと働けている	ほぼ全ての職員が	
		職員の2/3くらいが	
		職員の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての家族等が	
		家族等の2/3くらいが	
		家族等の1/3くらいが	
		ほとんどできていない	

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

近隣に畑を借りており、利用者とスタッフが一緒になって収穫をして楽しんでいる。
利用者本人が自分の意向をハッキリ言えない場合、家族からの要望を取り入れたり家族会を定期的を開いており、家族間の交流も盛んである。